

なんと未来ミーティング＜高校生コース＞開催記録

開催日時■令和元年7月27日(土)午後2時～4時

開催場所■福野庁舎2階講堂

参加人員■＜高校生＞南砺福野高等学校学生10名、南砺福光高等学校6名、南砺平高等学校4名
高岡高等学校1名、砺波高等学校2名

＜ファシリテーター＞富山県立大学学生4名

＜市側＞田中市長、齋藤副市長、上口市長政策部長、柴市長政策部担当部長、
小森地域包括医療ケア部長、井口地域包括医療ケア部担当部長・健康課長、
市川市民協働部次長・南砺で暮らしません課長、久保エコビレッジ推進課長、
竹中地方創生推進課長、上野情報政策課長

情報政策課職員2名、健康課職員2名、地方創生推進課1名、広報係2名

＜傍聴者＞5名(内、職員2名、学校関係者3名)

＜その他＞なんと未来支援センター 2名

スケジュール■

14:00 開会

14:00 なんとポイント紹介

14:00 テーブル・ファシリテーター紹介

14:10 市長あいさつ・南砺市の取り組みについて(プレゼンテーション)

14:30 グループワーク

15:30 グループ発表

15:50 市長総評

15:55 各課からグループへコメント

16:00 閉会・記念撮影・解散

市長プレゼンテーション■

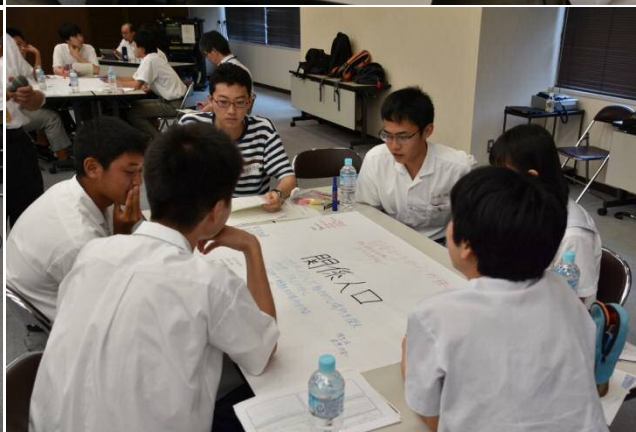
各課から募集した4つのテーマ「SDGs」、「情報活用」、「元気健康」、「関係人口」に沿って、南砺市の取り組みを紹介した。南砺市は7月に SDGs未来都市に選ばれ、経済・社会・環境の三側面をつなぎ、「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化を目指していること、LINEを使ったポイント制度を行うなど情報活用でも最先端であること、健康寿命を伸ばし地域や家庭でサポートできる仕組みを作っていること、人口が減ってもみんなでまちづくりができる「関係市民」として他市の方々に登録・情報発信をってもらう応援市民制度を作っていることなどを説明し、南砺市はこの4つのテーマを大事にしており、新しい総合計画・総合戦略の内容について高校生のみなさんにアイデアをいただきたい



と話した。

グループワークの内容■

参加した高校生はテーマ「SDGs」、「情報活用」、「元気健康」、「関係人口」毎にグループに分かれ、テーブルファシリテーターの進行のもと、テーマについてそれぞれの思いを模造紙に書き出し、自由に質疑応答を交えながら、思っていることがどうなってほしいのかを考え、各テーマ担当課職員の助言も受け、発表に向けて話し合いを進めた。



発表内容と市長見解■

(1)グループテーマ: 関係人口 (1:30:02～)

発表内容:



私達が考えたのは、まず関係人口を増やすためには外に出ていく人ではなくて、外からの人を取り入れようという意見になりました。その中で南砺市は田舎とかが強いイメージが強くて田んぼが多かったりコンビニが少なかったりっていうので、中から出て行く人が多いので、それを利用して地元の人にもいいところを知ってもらって外に出てったときにその人たちにアピールしてもらってっていうと、例えばインスタとか LINE とかで自由に拡散できる場所を作って地元の人が魅力的な場所を知った時

に簡単にいろんな人に伝わる場所を作ればいいのではないかと思います。

あと、今やってる TGC (東京ガールズコレクション富山) みたいな感じの有名な人を呼んで大きなイベントの開催地にすることで全国の人達の注目が集まって知ってもらえることもできるんじゃないかと思います。

以上です。

田中市長 (1:31:38～)

答弁・質疑内容:

今 SNS を使ってどうやって発信していくかっていう中で、みなさんどういう使い方をしてられるか聞きたいんですけど、例えば・・・例えば南砺市のきれいな景色がありますねっていうので僕がインスタでこうアップしたときに、どうやってタグつけますか？タグ付けはどうしますか？あまり付けない？あまり発信しない？見るだけ？じゃ見るときにどうやって見ます？最初。

(生徒: たまたまページ開いたら・・・)

あ、フォローをしている人のしか見えてこない。あのね最近僕は年齢が違うんでわかりませんが、上手く情報発信している地域っていうのは、タグ付けが上手っていうのがなんかあって、それも行政がタグ付けを一生懸命やってる訳じゃなくて、そこへ来た人たちが上手いタグ付けをして、そこに我々がまた探すっていう中で普通になってみえる気がして、例えば旅行に行ったら新しい街へ行ったらすぐにそこでタグで「何とかの街のおいしい店」みたいなことをパッと出すとダダダダーッと出てくることもあるんです。ああいうことなんかを使って関係人口みたいなものを広げて行ければいいかなとか思ってるんですけど、どんな感じですかね？

(生徒:・・・)

まあまあ分かりました。あと田舎というイメージがやっぱり強いので一回どうなんですかね、みなさんもやっぱりこういうところですよって一回外に出るっていう方ですか、みんなね。大学生、まあ大学にも行ったりしなきゃならないので、そういう感じですよ。じゃ、大学とか行ったら自分の地域ってこんなですよって自慢できますか？

(生徒: 多少は・・・)

多少は。どんなとこ？

(生徒: 都会よりも空気がおいしい)

偉い。あと他にありますか？

(生徒: 市との隣が近い)

そうなんです。今いろんなとこで災害が起きてる街があって、まあそういうところに行くとはんと隣近所との付き合いって大事だしね、あと自然とかっていうのが、今おっしゃってるのが自信持って大学へ行ったり、都会へ出て言えるようになってもらいたいと言うのが私の思いなんですけど、2030 年までにもっともっと自慢できるようにしていくためにはまず何が大事だと思いましたか？

(生徒:・・・)

いいですよ、もしかしたら、僕は難しいこと敢えて聞いたんだけど、もしかしたらね、逆に今のままが今のまま残すことの方が誇らしくなる時代が来る。逆に。そんなことを実は僕思ってる、そうすると今どんどんどん日本中田んぼに誰も入らない荒れた田んぼが出来てきたり、山に誰も人が行かないっていうことが大きな日本全体の課題になって、それを 2030 年くらいには都会の人達はもう既に都会でこう、自分が伸び伸びと暮らせる場所っていうのがなんかこう、ストレスが今たまって人が増えてるんじゃないかなと思って。そうすると逆にそういう人達の所へ南砺のイメージを田舎のイメージ、自分たちにとってはすべてが誇れるかどうかわかりませんが、そういうと

ころへ南砺のイメージを送り込むっていうのはすごく大事かなあと、ということを僕思ってます。ちょっと今 FaceBook じゃなくてツイッター探したら「夏休みになったので南砺市に来ました、都会の人が来ました」って、南砺市のこと田舎と表現せずにちょっといろんなこと書いてみましょうみたいなツイートがあって、きれいだとか、景色がいいとか空気がいいとか、こう、ひんやりとしたなんかすごくいい感じのことがいろいろ書いてあって、そういう人達が僕増えてるような気がして。ということは、2030 年までに私たちは逆に田舎のイメージという、悪いイメージかいいイメージかわかりませんが、田舎というものの価値を高めて、その価値を発信していく方が大事じゃないかなと僕は思っています。



(2) グループテーマ: 元気健康(1:37:17~)

発表内容:



僕たちは、がん検診についてと健康、児童虐待とかについて話をしました。がん検診は大人が受けるのが少ないというのは忙しかったりとか、あとは自分が大丈夫だと思う人が多いっていう考えが出て、僕たちはそこから検診のことを自分たちの世代が親に言ったりとかインターネットとかをいろいろ使って広げて、知らせて行くっていうことと、働いている所も職場がそういう診断とかを簡単にできるようなところがあればいいのかなみたいな、そういうような話をしました。

子育て支援とかについては、結婚観とか保育相談ができるっていう所があるよっていうところを HP とかに掲載して、子育てをするお母さんだったり、いじめられてる人が一人で抱え込まないようにできたらなっていうふうに思いました。

田中市長(1:38:40~)

答弁・質疑内容:

ありがとうございます。まちづくりの中で一番大事なことは、やっぱり健康とか安全とかっていう、健康っていうものは保健、安全とかって言うことになってくると思うんですけど、ほんとにおっしゃったように俺は大丈夫だって言う人が多いんですよね。元気だから大丈夫だっていう。だから、本当は職場も市もみんな健康診断を受けてくださいねっていうのは当然アピールしなければなりませんけど、これ、何でもそうなんですけど、まずは家庭からっていうこと僕は思って、家庭の中で、だってお父さんとお母さんの健康、今健康って会話ある？家で。ないよね、あんまりね。でもおいしいもん食べて、食べるときに野菜が多い方がいいよねとかって会話ってあんまりないよね。家庭の中で、おいしいっていうのはあるけどね。お母さん作っておいしいねって言うけど、なんかね、そこでね僕は最近健康とか心もよ、健康になるためにはまずは家族の会話から始まると思うんですよ。私も娘がいる

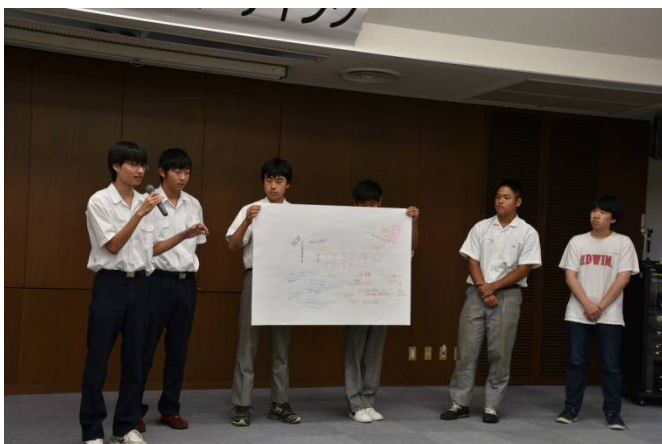
けど、高校時代にはほとんど会話がなかったんですけど、私一生懸命こっちらしゃべってるけどなかなか返してくれなくて落ち込んだことありましたけど、ぜひみなさん FaceBook でもなんでもいいですからお父さんとお母さんといろんなお話をするっていうのを LINE とかって最初は。そのうちこう、話をしてくると、「なんかお母さん最近さ、顔色大丈夫？」とかみたいな話しがどんどんできてきたり、「一年に1回は絶対検診に行つてね！ 私たちのために！」みたいなそういうのがまず一番効くと思います。最近の人って。ぜひお願いします。

それと、子育て支援とかって、今当たり前なんですね、どこの街も。子育て支援やりましょう！でも都会の方では保育園とか幼稚園の待機を、入れないっていう現状があって、それをなぜ入れないっていうのかっていうと、人がいっぱいいるからですよ、沢山いるんで、子供たちが沢山いるんで難しい。ただ今はお父さんもお母さんもすぐに働く時代なんでどこかに預けなきゃならないっていうことなんで、南砺市のいいところはもしかしたら、三世代とか親子がすぐ近くに住んでいてっていうことを今一生懸命やってるんです。その中で、やっぱりちょっと自由にお父さんに預けたりお母さんに預けたりしながら仕事ができたりそういうところも大事ななあと思ってます。でも南砺市は今のところ待機児童がゼロなんで、幼稚園・保育園に入る人が全員が入れるって状況なんですけど、そうすると逆に東京にいても南砺に子供を預けられますよっていう社会に今後なっていくような気がして。そうするとじゃ仕事どうするの？って言われても、そうすると逆にさっき情報化って言ったんですけど、今家で仕事をしましょう、東京の会社でも南砺でお母さんは仕事をして、そして土日は新幹線で行って、子育ては南砺でできますよっていう、そういう暮らし方も今後出てくるかなっていうふうに、テレワークって言うんですけど、そういう仕事が多々今増えてくるような気がして。いろんな情報とか、いろんな健康とかいろんなものがリンクしてるっていうことだけ、これからもそんな感じかなと。

今みなさんは、高校出て、大学行ったり働いたりしますけど、イメージとして会社へ通って、そしてみんなで机並べて仕事するって、今の我々の仕事のイメージでいるけど、2030年くらいになると半分くらい家にいて仕事をするかもしれない。朝化粧をして電車に乗って行かなくても家で仕事を、でもテレビ会議とか化粧はしなくちゃならない。いろんな働き方がこれからどんどん出てくるので、それはほんとにこれから変わってくと思うけど、僕は何を言いたいかっていうと子供中心に考えていく、人って大事だなと思って。今までは仕事中心で給料ももらわないと生活できないみたいな感じがあったけど、これからは子供中心に住む家を選ぶ。だから、子供が育つ時にはどこがいいかなって探して、じゃ実家のほうがいいね、お母さん側の実家のほうがいいねって選んで、あとは働くとかね。そんな働き方をいろんな考えるような時代になってくるような気がします。

(3)グループテーマ:情報活用(1:43:45~)

発表内容:



僕たちは情報活用について考えたんですけど、まず現状を見て、中で例えば電車の情報だったり災害の情報だったりっていうものと、あとは外に発信していかなくちゃいけないっていう二通りの情報があるっていう話をしてて、南砺市は現状見てて、二通りの情報両方とも発信するのが上手くできていないなっていう話をしました。例えば災害のアプリがあるっていう話があったんですけども、ここにいる全員がその存在を知らなかったり、HPをここにいる全員があんまり見たこと

がなかったりとか、そういう話をしてて、どうやったら上手くまとめれてみんなに発信できるかっていうことを考えてたんですけども、さっきのポイントを上手く使っていく、例えば南砺市のいろんな商店街とかいろんな所で使えるようにするとか、ポイントの重要性を配信であるとか、観光とかだと観光に行く人のためのアプリを一つ作って、例えば航空会社とかそういう南砺市に行こうと思ってる人にこういうアプリがありますよっていうことを提案するとか、そういうことを話してました。あとは自動運転とか AI とか、そういうことに関しては国からテストしたい街がありますかって言われたらぜひ手を挙げてもらって、この街がそういうこれから新しい時代に走っていく先端となっていってほしいなっていうふうに思いました。

以上です。

田中市長(1:44:55～)

答弁・質疑内容:

南砺市で自動運転の実験やったの知ってる人いますか？

(生徒:さっき聞いた・・・)

さっき聞いた？そういう情報がなかなかね、届いてないんだよね。その通りです。我々が情報をみなさんにお伝えするってのがちょっと下手なんです。行政っていうのはほんと下手なんです。これはやっぱりなんかしなきゃならないなと思ってます。じゃあこの中で富山県の防犯とか、警察からのツイートって見たことあります？それは登録してある？そういうことはですね、だから必要か必要じゃないかは別として何かあったらそこから見れるねっていうのは我々もちゃんと整理をして発信すべきだなっていうのは感じました。

あとはちょっと今 AI なんですけど、観光なんかっていうのはこれからどこへ行きたいかっていう、こっちで探さなくなるんだろなと思って、ちょっとみなさん感覚的にどう思うか、さっき僕はツイッターとかインスタで探すって言いましたけど、AI ですだから常にもうみなさんスマホでいろんなこと、自分の好きなこととか、自分のおいしい好きな物ってこう、どっかで買ったりしてますよね。例えばアニメが得意ですって、アニメのアクセスどんどんどんどん増やしてくってね、これってビックデータなんかで見ると、N さんがこういうの好きですって言うのわかるんですよ。で、そうすると AI で、そういうところへきて、例えば N さんが・・・N さんしか名前がわかんないんだけど、N さんが富山駅へ着きました！新高岡駅に着きました！そうするとそこで Wi-Fi に繋がるわけですよ、自分のスマホが。で、その Wi-Fi に繋がったときにピピピってやってはい繋がりましたっていった瞬間に、向こうは「あ、このスマホの人はお蕎麦が好きなんです」ってわかる時代じゃない。そういうソフトを作ったりしたらいいな～って僕思ってる。実はそういうのあって、そういうのがあると、じゃあ今度は城端駅へ来ました、城端駅へきたら五箇山が近いですみたいなことはもう全部入ってきて、そこで今度どういうバスに乗ればいいのかっていうのが AI でパパパッと上がってくると、そんな時代になってくるんじゃないかなと思って、なんかそういうのを作りたいと。みなさんいかがでしょうか。

多分ね、多分これから新しいサイトを作ったり新しい発信を我々が行政とか民間で、こうどっちがいいかっていうことの議論よりも、その人がアクセスした時点でその人のところへパッとなんか情報が入るような時代が来るんじゃないかなと思うんですがどうでしょうか。ま、そういう時代が多分 10 年後くらいには既にそうなるような気がして。

(生徒:例えば僕ら YouTube を見て関連動画を見て、そういう小さいところで、もうそういうことが始まっている)

もうすでに、ほとんど AI が入ってますよね。例えば僕がシューズ買いたいって、アディダスのシューズをどっかで選んでくると、その後ずーっとしつこくそれってずーっと来るよね。そういうことなんです。既にそういうことになってるので僕らはこれから、まあなんて言うかこう無理やり行政からの押しつけじゃないけど、そういう情報ってこう、

興味がある人にはどんどん行くようになってる。ただし興味が無いと最悪になってしまう。ですから、健康とか安全とか南砺市のこととか、観光のことに興味のある人にはどんどん情報が集まってくる時代になるんじゃないかなと。まあでも南砺市が情報発信が下手だっていうのは私も反省してます。がんばります。ありがとうございます。

(4)グループテーマ:SDGs(1:50:10～)

発表内容:



僕たちは SDGsについて調べました。まず SDGs っていうのは17個のテーマからできていて、その17個あるテーマの中で持続可能な街と地域社会というテーマに僕たちは目を付けました。この持続可能な街と地域社会というテーマは、街や人々が住んでいるところを誰もが受け入れられ安全にするというものを定めたテーマです。僕たちはこの中から地域に住む外国人への認識を変える必要があるんじゃないかなと僕たちは考えました。今の僕たちは恐らくみんながどう思っているかというのは

わかんないんですけど、日本に住んでいる外国人、今僕たちの認識は日本に住んでいる外国人、日本に住んでいる働いていたりする外国人っていうふうにいるかもしれないんですけど、それを日本が快適で働きやすく住んでいる外国人に変える必要があるんじゃないかなっていうふうに考えました。それを変えるために、利用サービスであったり、交流の場を増やしたり、言語を通じやすくする、日本と外国人にも優しく日本人にも優しい言語、標識の書き方であったり道路標識であったりっていうのを変える必要があるんじゃないかなって思いました。これらを達成するために、2030年これらを達成するために電子機器、アプリが必要になるんじゃないかなと思いました。このアプリによって市民への認識を増やす必要があるっていうふうに考えて、その南砺市が作ったアプリでイベントであったり、外国人との交流だったり、交通、健康、ハザードマップ、避難所場所とか、ほんとに便利なものをすべて凝縮したようなアプリを作ることによって市民全員がそのアプリを入れて、それを常に見るような状況にしてあげることによって、そのアプリ内に SDGsで僕たちは南砺市はこういう活動をしてるんだよっていうのを少しでも目に入るようにすれば、一人一人の認識が変わるんじゃないかなっていうふうに考えました。

以上です。

田中市長(1:52:15～)

答弁・質疑内容:

SDGsでいくと、10番と11番？

(生徒:11番)

11番？11番と「人や国の不平等をなくそう」みたいなのも含めて10番、11番くらいってどこですか？ありがとうございます。

(生徒:もう一つをテーマにすることで他のとこの関係性で、他の所も考えて行くっていう・・・)

そうなんですよ、そういうことなんですよ。僕が何を言いたいかっていうと多分11番っていうので最初入るけど、結局教育だとか、すべてにこう関係してくるのが SDGsで、10とか、3番とかいろんなことに関係してくるのが実は

SDGsの、まあ考え方などで多分そういうことだと思う。そうするとパートナーシップとか平和と公正とかっていう全部に広がって行くっていうのをまずは理解していただいたので良かったなあと思います。あの、2030年、後11年後にどういう街ができるかっていうことを僕は「多様性を認め合う街」。今私たちの社会ってわりと、わりとね、あの、こう、なんて言うかな、こう固まり固まりがあるんですよ、固まり固まりが。こういう学校の固まりがあつたり、部活の固まりがあつたり、地域の固まりがあつたり、それが大きくなると日本人という固まりがあつたり、もうそれは例えば今ちょっといろいろ問題がある韓国っていうことがあつたり、中国ってことがあつたり、そんな固まりがあつてね、あるけど、その固まりを壁があるとするとその壁を低くする、もしくははしごを掛けてあげるっていう、そういう社会をこれから作っていかなくちゃならん。もうちょっと身近なところで考えると、例えば障がいがある方と健常な方の壁があるとすると壁を取っ払いましょう、男性と女性の何か差があるとすると、男性と女性は一緒ですよっていう社会にしなければならぬ。で、そういうことをちゃんと日々普通に何も誰も言わなくても考えていかないとダメなんです。これから。2020年、2030年、もうオリンピックが2020年ですので一気に日本の多様性を認め合う社会というのはもう来てなきゃダメ。来てなきゃダメなのに、まだパワハラとかセクハラとかって言われてるそういうような方が、僕らも気をつけなきゃならないんですけど、そういう方がいろいろと目につくような社会ではまだまだダメで、これからみなさんの時代はですよ、みなさんの時代はまさにみんな多様性を認めあう、今この地球上にいる一つのまあ生物、虫も植物も人間もすべて大切なんだっていうそういうなんか優しい地域を作っていくことが大事かなあと思っています。で、そういうことからさっきおっしゃったように外国人が我々は、逆に外国人と日本人で比べられないくらいにもうすでに一緒にならなきゃダメだなあと思って。で、なんかよくわかりませんが、相撲会にはモンゴルの人が強いから日本人が勝ってほしいとかって言う人がまだいる。で、なんか最近は大坂さんとかサニブラウンとかあいう人達が日本の中ではスポーツとしてもものすごく先進的にがんばってる。で、みんなで応援しよう。だから、なんかそういうこともなんかこう気にせずこれからみんなが、こう暮らしていくような地域をまずは南砺市から作りたいなあ。そうするとSDGsということ、その4文字の言葉とか単語とかじゃなくて誰が来ても優しい街にしていとか、子供も大人もみんな幸せに笑ってる街っていう、そういうイメージを作るってことが実は南砺市のブランディングで、そのブランディングが確立するころには、たくさんの方がこういう街に住みたいっていうふうに来てくれるような、そういう思いを持ってまちづくりを進めていくことが大事かなあ。ちょっとごめん、ごめん、僕一人でしゃべってる、ごめんなさいね。そういうふうには思ってます。

こないだテレビ見てたら、アイヌの人達が差別を受けてたメンバーが、民族が、それはオーストラリアのアボリジニーも一緒だけど、天から役目なしに下ろされたものは一つもないって言葉があつて、それで天から降ったものを争うことなく分けるって言葉がある、それはすごくいい言葉だなあと思って。なんかそういうことが最近感じました。オリンピックを機会にそういう街を作りましょう。

市長総評■

僕は実をいうと、いろいろ聞きたかったことがあるんですけど、僕が一方向的にしゃべりすぎてすみませんでした。あの、みなさんにもう一回確認ですけど、こういう機会は楽しいですか、楽しくないですか？楽しくない？楽しい？楽しい？何となく来て良かったって思います？実はですね、こういう事をやって、そして今日ちょっといろんなアイデアっていうか具体的な話に政策にはまだなつかどうかわかりませんが、我々ちょっとみんなの書いたことや言ったことを全部後から整理して、みなさんがこういうイメージを持ってるんじゃないかな、こういう事をやればいいんじゃないかなっていうのを実はまた文面にして、こう計画の中に入れるか入れないかっていう所まで来ますんで、またみなさん同じ人が集まるっていうことじゃないですけど、どっかでみなさんに、こういうことを今考えてます

ってのを、こう伝えられるものがあれば伝えていきたいと思ってるんですね。そうすると、それを見て、「あ、あの時に言っていた、こういうことを言っていたことがこうなったんだな」というのが、もう一回そういう集まるか集まらないか別として、これはまさにSNSでこうみなさんに流したり、例えばさっきからタグ付けなにやったって言ってましたっけ？なんと未来？ハッシュタグのなんと未来を、アルファベットでNANTOMIRAIというところに、うちの担当がこれからこういうことやりたい、こういうことどうですかね？って今日ここでちょっといろんなアイデアをこう打ち出して、FaceBookとかツイッターがいいか。ツイッターでもFaceBookでもこう書いて、みなさんが反応してくれると非常にまた次のやりとりができるような気がしますんで、そんなことを今思いましたので言わせていただきます。



それと、あの、ほんとに情報発信が悪いっていうのが実はあります。これは5万人の市民のみなさんに全員一気に情報発信をするということを今まで考えていましたけど無理だということが分かりました。なぜか。みなさんは広報は読まないでしょ。ね？で、広報を読みたい人はいっぱいいる。で、広報を読まない人はFaceBookなんかでこう流す。で、そこにアクセスがないとなかなか情報ってみなさんのところにダイレクトに情報ってなかなか入らないんですね。だから、これから

我々もっと考えて、みなさんを今日なんて言うかな、プラットフォームのような、今日この会議できたんで、ここからちょっとずつみなさんの方へ情報が流れやすいように何かちょっと考えて、そしてそこからみなさんがいろんな所へ流していただけるようなお手伝いをしていただければありがたいなあと思うんですが、いかがでしょうか。ちょっとずつできますか？県立大のみなさん。そしてその方々が最終的には知らない内に関係市民になっている可能性がありますからね。よろしいですか。そういうことなんです。ちょっとずつね、そういうそのきっかけ作りが必要で、きっかけが最初はちょっと、しつこく言いましたけど、あなたたちの考え方が将来の南砺市を作るんですって言ったけど、まさにそのことがスタートだと思って今日いろいろと議論をもらって、これからがスタートなんです、実を言うと。これからがスタートで、またみなさんにいろんな情報が届くように考えますので、またそれに対してご意見があったり、またツイートしてくれたりしていただければありがたいなあというふうに思いました。

それともう一つね、しつこいようですが、とにかく地域がどうあるか、今の悪いところ、もしくは今のおかしいところっていうのも大事、大事です。大事なんですね。それよりも大事だと思うのは、みなさんが大人になって、その時は南砺に住んでるか砺波に住んでるか高岡に住んでるか分かりません、わからないけれども自分が生まれ育った地域は、2030年とか2050年とか2060年、みなさんが50歳、60歳くらいになったらどんな街になるべきかっていうのを頭のどっかでいつも考えてほしいなと思うんですよ。そのことが間違いなくいろんなところへ波及して、そしてそのことがやはり地域づくりのアイデアになって、そしてまたみなさん行動になったりしますんで、ぜひそのことを少し私から、しつこいようですが頭のどっかに入れておいていただきたいというふうに思います。

いろいろと覚えていただきました。ほんとに感謝申し上げます私からの総評とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会・記念撮影・解散■

